釧路湿原自然再生協議会
ニュースレターNewsLetter

No.29

令和5年3月31日
編集・発行：釧路湿原自然再生協議会　運営事務局

令和5年3月10日(水)「第29回 釧路湿原自然再生協議会」が釧路市観光国際交流センターで開催されました。

■開催概要

協議会には、50名（個人21名、18団体、オブザーバー3団体、関係行政機関8機関）が出席しました。昨年同様、オンライン開催と併用して行われ、最初に事務局から第11期（前期）協議会構成員の公募結果について報告を行いました。その後、第11期協議会の会長として中村太士委員、会長代理として高橋忠一委員が選任されました。中村会長の進行のもと、「第10期(後期)協議会の収支報告」「第28回協議会以降の小委員会開催報告」などが行われ、内容を協議しました。

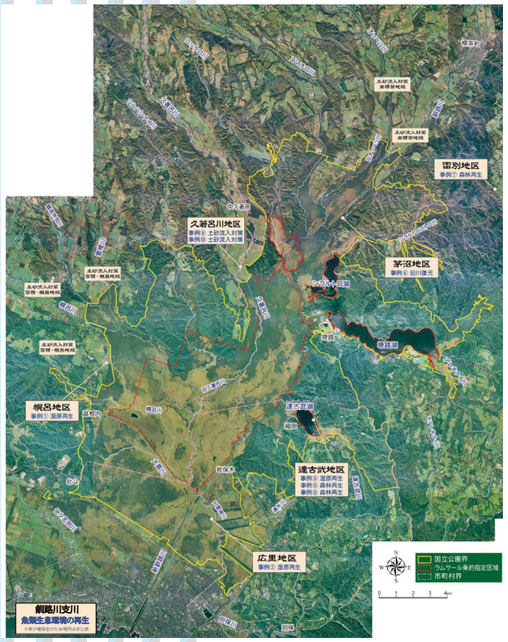
自然再生協議会とは

釧路湿原自然再生協議会は、自然再生推進法に基づき、自然再生を効果的に実施するために、地元団体や行政機関・自然保護団体の呼びかけにより2003年11月に発足しました。具体的な事業について報告・議論する7つの小委員会を設置し、それぞれで検討を行っています。

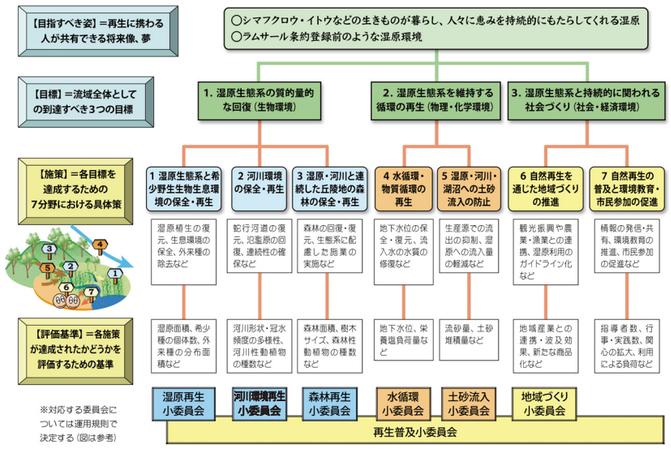
【第29回協議会　出席状況】

構成員	個人	21／78名
	団体	18／49団体
	オブザーバー	3／13団体
	関係行政機関	8／10機関
合　計		50／150名

自然再生事業の取り組み



釧路湿原の保全と再生の目標を達成するため、下図のように具体的な施策を7つの分野に分けて実施しています。それぞれの施策に対応する小委員会を設置して検討を進めています。



地域づくり小委員会

地域づくり小委員会でのこれまでの取組について、今後も継続的に活動を推進し、新たな取組を進めることに活かすため、令和3年に活動報告書をとりまとめました。また、釧路湿原でのカヌー利用に関わるガイドラインの更新やポケット版・ポスターの作成、農業事業者への環境保全に関する取組についてのヒアリング等を行いました。

さらに、かわたび北海道における取組として、釧路湿原内の河川堤防を活用したサイクルコースの試走会やホーストレッキングなども実施しています。

▲農業事業者へのヒアリング

▲ カヌーガイドライン

▲河川区間の利用（ホーストレッキング）

▲河川区間の利用（サイクリングコース）

再生普及小委員会

釧路湿原再生事業に関する情報発信として、釧路市中央図書館へ資料を追加収蔵しました。また、湿原への興味と理解を促す企画として、座学とフィールド学習を組み合わせた市民講座を開催しました。また、湿原学習のための学校支援WGとして、映像資料等の作成・提供や、達古武地域自然再生事業地を活用したフィールド学習等を行っています。

▲釧路市中央図書館への資料収蔵

▲フィールド学習映像資料

▲自然再生事業地でのフィールド学習

▲市民講座の開催（フィールド）

協議会の再編成について

事務局より、協議会の再編成について提案がありました。

協議会では釧路湿原の保全・再生を達成するために3つの目標を掲げ、その目標を達成すべく7つの施策について各小委員会で検討を進めてきました。近年は気候変動・カーボンニュートラル等の新たな社会・地域課題が生じている中で、協議会としては専門委員の高齢化、人員・予算の限定化などが課題となっています。そこで、協議会・小委員会の省力化を目的として、同じ目標を掲げる小委員会を合併し、将来に向けた釧路湿原の取組のための再編成を検討しています。

協議会が2005年に設立され、今年で18年目となります。20年目の節目となる2025年の合併を目指し、2023年からの2年間は同じ目標を掲げる小委員会の合同開催を試行していくことで意見がまとまりました。

その他

本協議会において、湿原周辺部に建設されている太陽光発電に関する提起がありました。

釧路湿原周辺部でソーラーパネルの建設が大規模に進められている課題に対して、釧路湿原自然再生協議会としてどのように対応していくかが提起されました。このままでは釧路湿原の景観の破壊だけでなく、希少生物の生息環境への影響拡大も懸念されます。昨年度の協議会では、釧路湿原・釧路川流域の生物多様性を保全していくための「生態系評価ワーキンググループ」の立ち上げを検討し、キタサンショウウオの生息適地マップを作成して保護保全に活用していくことが話し合われています。今ある自然環境を残すために、一定の条例やガイドラインをつくるなど、協議会として要望(提言)書を提出する方向で検討していくことで意見がまとまりました。

■第28回協議会以降に開催された小委員会の開催概要

小委員会名	開催日時	議　事
第25回 湿原再生小委員会	R5.2.15(水)	1. 幌呂地区自然再生事業について 2. 達古武湖自然再生事業について
第26回 河川環境再生小委員会	R5.2.9(木)	1. 茅沼地区旧川復元事業について 2. ヌマオロ地区旧川復元事業について 3. 釧路川支川魚類生息環境の再生事業について 4. 新たな自然再生に向けた調査河川について
第27回 土砂流入小委員会	R4.1.27(木)	1. 久著呂川における土砂流入対策について 2. 今後の予定
第22回 森林再生小委員会	R4.10.18(火)	1. 雷別地区自然再生事業について 2. 達古武地域自然再生事業について
第21回 水循環小委員会	R5.1.26(木)	1. 大規模出水による影響検討 2. 気候変動影響評価について
第11・12回 地域づくり小委員会	R4.3.22(火) R5.3.2(木)	1. 委員からの話題提供 2. 取組状況の報告
第38回 再生普及小委員会	R4.9.29(木)	1. 再生普及小委員会の活動報告 2. その他

～ 委員を募集しています ～

●毎年10月中旬～11月初旬に釧路湿原自然再生協議会の委員を募集しています。

●どなたでも参加でき、興味のある小委員会に参加していただけます。

■資料の公開方法　委員会で配布された資料および議事要旨は、釧路湿原自然再生協議会ホームページにて公開しています。
ホームページアドレス　http://www.hkd.mlit.go.jp/ks/tisui/qgmend0000003ppq.html

■ご意見募集　釧路湿原自然再生協議会運営事務局では皆様のご意見を募集しています。
電話・FAXにて事務局までご連絡ください。

釧路湿原自然再生協議会ニュースレター　No.29

【編集・発行】釧路湿原自然再生協議会　運営事務局
【連　絡　先】TEL(0154)23-1353　FAX(0154)24-6839

第28回協議会以降の小委員会開催報告

湿原再生小委員会

■幌呂地区自然再生事業について

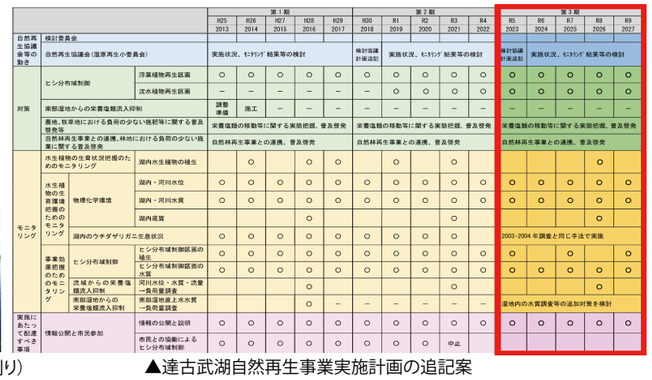
今年度は引き続き事業実施箇所の地盤切り下げと排水路埋め戻しを行い、既往の事業実施箇所では、湿原植生が経年的に増加しています。今後も事業を継続して実施します。　また、未利用排水路のせき止め実施によるハンノキ成長抑制を目標としているＢ区域の実施に向けたモニタリング計画案を検討しました。

▲B区域の湿原再生優占度案の検討

■達古武湖自然再生事業について

今年度も引き続きヒシ刈り取りや水質等の調査を行いました。これまでの成果から手刈りでは2年、ワイヤー刈りでは3年継続することでヒシの制御効果が確認されました。また、達古武湖自然再生事業実施計画について、2023年度以降のモニタリング計画を更新した追記案を作成しました。

▲ヒシ刈りの成果（左：手刈り、右：ワイヤー刈り）



			第1期 H25 2013	H26 2014	H27 2015	H28 2016	H29 2017	第2期 H30 2018	R1 2019	R2 2020	R3 2021	R4 2022	第3期 R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027
自然再生協議会等の動き	検討委員会																
	自然再生協議会（湿原再生小委員会）		実施状況、モニタリング結果等の検討					検討協議計画追記	実施状況、モニタリング結果等の検討				検討協議計画追記	実施状況、モニタリング結果等の検討			
対策	ヒシ分布域制御	浮葉植物再生区画	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		沈水植物再生区画	－	－	－	－	－	－	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	南部湿地からの栄養塩類流入抑制		調整準備	施工	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	農地、牧草地における負荷の少ない施肥等に関する普及啓発		栄養塩類の移動等に関する実態把握、普及啓発					栄養塩類の移動等に関する実態把握、普及啓発					栄養塩類の移動等に関する実態把握、普及啓発				
	自然林再生事業との連携、林地における負荷の少ない施肥に関する普及啓発		自然林再生事業との連携、普及啓発					自然林再生事業との連携、普及啓発					自然林再生事業との連携、普及啓発				
モニタリング	水生植物の生育状況把握のためのモニタリング	湖内水生植物の植生		○		○	○		○		○					○	
	水生植物の生育環境把握のためのモニタリング	物理化学環境 湖内・河川水位	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		物理化学環境 湖内・河川水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		物理化学環境 湖内底質				○					○					○	
		湖内のウチダザリガニ生息状況	○	○	○	○	○	○	○	○	○		2003-2004年調査と同じ手法で実施				
	事業効果把握のためのモニタリング	ヒシ分布域制御 ヒシ分布域制御区画の植生	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○		○
		ヒシ分布域制御 ヒシ分布域制御区画の水質	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		流域からの栄養塩類流入抑制 河川水位・水質・流量一負荷量調査				○					○					○	
		南部湿地からの栄養塩類流入抑制 南部湿地直上水水質一負荷量調査				○	－	－	－	－	－	－	湿地内の水質調査等の追加対策を検討				
実施にあたって配慮すべき事項	情報公開と市民参加	情報の公開と説明	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		市民との協働によるヒシ分布域制御	○	○	○	○	○	○	○	○	中止						

▲達古武湖自然再生事業実施計画の追記案

河川環境再生小委員会

■茅沼地区旧川復元事業について

ハンノキの樹皮の一部を剥ぎ取って立ち枯れさせることで、湿原植生の回復を促す試験を令和元年度から行っています。これまでの試験で、地下水位が比較的高い過湿な環境でハンノキの枯死率が高く有効であることが確認されました。

林床植生については旧川復元による生育状況の変化が見られるため、今後もモニタリングを続けていく予定です。

▲ハンノキの枯死状況

■釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画について

今年度は魚道の整備と合わせてイトウやサケ・マスの産卵床についてモニタリング調査を実施しました。産卵床分布調査では、サクラマスの産卵が上流域で大きく増加しました。

また、イトウの個体数回復に向けて、標津サーモン科学館と協力して人工飼育による稚魚の育成も進めています。

▲魚道整備後の状況

▲イトウの発眼卵の採取

■ヌマオロ地区旧川復元事業について

令和元年度から旧川復元に向けた工事に着手し、令和4年度は工事用道路の施工、左岸側旧川の掘削工事、本川への管理橋設置、右岸側の工事用道路の整備を実施しています。

左岸側旧川の掘削に伴い、水生生物の移植作業も行っています。

▲魚類移植の作業状況

■新たな自然再生に向けた調査河川について

新たな自然再生に向けた湿原再生検討河川として、最も湿原への土砂流入量が多い雪裡川を候補とした調査・検討を進めることについて議論しました。雪裡川はタンチョウのねぐらやサケ・マスの遡上が見られるほか、対策によって周辺農地等への影響等も考えられることから、これらを考慮した自然再生手法を検討していきます。

（続く⇒）

土砂流入小委員会

■河道の安定化対策について

河道の拡幅や帯工を改良することで、近年は土砂生産量が抑制されています。対策を実施したことで、比較的細かい粒径の河床材料が見られ、サケやサクラマスの産卵床が確認されるようになったり、エゾトミヨ等の緩流域を好む種も生息するようになりました。

▲河床低下区間の対策前後の状況

■河川沿いの土砂調整地について

河川沿いの土砂調整地は令和2年3月までに河道拡幅と管理用道路の整備が完了しました。また、効果量を把握するため横断測量と河床材料調査を実施しています。令和4年以降も対策効果を検証するため、引き続きモニタリングを実施します。

▲河川沿いの土砂調整地（整備前：H28）
▲河川沿いの土砂調整地（整備後：R4）

■排水路合流部沈砂池について

現在は標茶町、鶴居村、農業団体が管理主体となって施設管理やモニタリングを行っています。今後も土砂上げの実施や堆積状況を確認していきます。

■湿原流入部土砂調整地について

8月に比較的大きい規模の出水があり、浮遊砂量・堆積土砂量の結果から、上流から流入した土砂のうち約4割が土砂調整地に堆積したと考えられます。今後もモニタリング調査を継続してし、次年度は右岸土砂調整地も含めたシミュレーションにより事業効果を評価する予定です。

▲排水路の維持管理状況

森林再生小委員会

■雷別地区自然再生事業について

ミズナラやハルニレ等4種類の広葉樹を合計300本植栽し、ノウサギ等の食害対策として保護管で覆いました。樹木は順調に生育しており、来年度も引き続き、植栽とあわせて生育状況の調査を行う予定です。今後は、保護管の劣化状況の把握や除去についても検討していきます。

▲植樹の様子

▲リモコン式草刈り機地拵えの様子

■達古武地域自然再生事業について

植栽した苗木は10年目で2m以上に成長しています。今後は植栽木の成長後の再生手法や、既存のカラマツ林との交代方法について検討を進めていきます。

達古武川上流部では特定外来生物のウチダザリガニが確認されていますが、昨年度より密度は減少しています。天然堰が侵入を防いでいる可能性が考えられます。

また、環境学習プログラムとして、釧路市生涯学習センターと連携したイベントを実施しました。

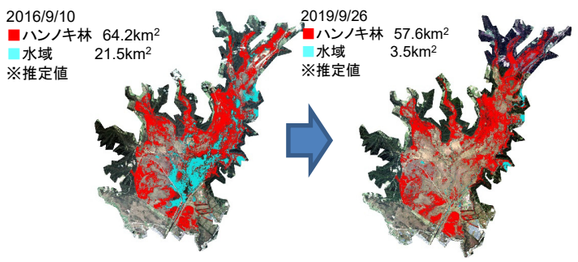
▲ウチダザリガニと天然堰

▲環境学習プログラムの実施状況

水循環小委員会

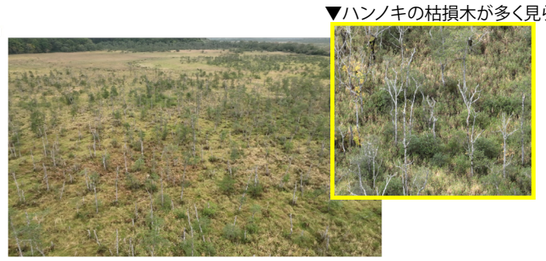
気候変動を想起させる大規模出水の発生や出水頻度の増加を踏まえて、「大規模出水による影響」と「気候変動の影響」について検討を行いました。水循環シミュレーションやレーザー測量・ドローンによる撮影の結果等を活用し、ハンノキ林の増加・減少と洪水の関係について調査を実施する予定です。大規模出水による影響検討で得られた知見をもとに、気候変動による影響評価検討を引き続き進めていきます。

検討にあたり、今後は他の小委員会と連携しながら対応策の検討に繋げていきます。



▲平成28年出水後のハンノキ林の変化の推定

▼ハンノキの枯損木が多く見られる


▲UAV（ドローンによる現地確認）

第10期（後期）釧路湿原自然再生協議会の収支報告、第28回協議会以降の各小委員会の開催報告を行い、協議会全体としての討議が行われました。